

神奈川県産淡水魚 5 種の分布に関する新知見

木村 喜芳・萩原 清司・中根 基行

Kiyoshi Kimura, Kiyoshi Hagiwara and Motoyuki Nakane:
Distributional Notes on Five Species of
Freshwater Fishes in Kanagawa Prefecture

神奈川県内の淡水魚類相については、斉藤(1984)、林ほか(1989)、浜口(1995)などがとりまとめを行っているが、筆者らは近年の調査で県内から新たに確認された種類や新分布地に関して得られた知見について、逐次報告を行ってきた。本報では、県内初記録種を含む計 5 種について報告する。

報告に用いた資料は、横須賀市自然博物館魚類資料(YCM-P)及び葉山しおさい博物館魚類資料(HSM-P)として登録、保管している。資料の外部計測は、10%ホルマリン液で固定後、70%エチルアルコールに移し、保存したものに基づいて行った。また、種の同定、学名、測定方法は中坊(1993)に従った。

1. サケ *Oncorhynchus keta* (Walbaum)

YCM-P 33383, 1 個体, 体長605mm, 逗子市逗子下田橋(田越川), 1995年11月6日, たも網, 中根基行採集。

調査標本は、体長60cmの雌個体で、採集時には腹部が卵で著しく膨れていたが、捕獲直後に放卵した。生時の体色は、背部が黒褐色、腹部が銀白色を呈し、体側には不規則な暗色の雲状斑が認められた。ホルマリン固定後には、全体に体色は黒ずんだが、体側の雲状斑は明瞭に認められた。

生息状況

採集地点は河口から約 2 kmの感潮域で、周囲には住宅地が多く、河岸はコンクリート護岸が施されている。当地点には放流されたニシキゴイが多く、採集個体はこの群れに混じって遊泳しているところを発見された。河床に設置されたブロック状の根固めにより形成された浅瀬を乗り越えようとする行動が何度も観察された。

分布

国内では、北海道・東北地方・北陸地方を中心

に分布し、本州太平洋側では利根川以北の河川に産卵のために遡上するが、移殖卵の人工孵化放流により、千葉県や東京湾内の多摩川にも回帰が知られている(真山, 1989)。

県内でのサケの採集事例は、河川に遡上したものや東京湾・相模湾の海域で捕獲されたものも含め、トピック的に報道されることが少なくないが、標本の所在などは詳しく報じられない。逗子市池子川(田越川支流)においても1986年11月に体長70cmの雌1尾の斃死体を確認され、新聞報道されているが、三浦半島の河川に遡上したものの標本個体はこれが初めてである。

2. アカザ *Liobagrus reini* Hilgendorf

YCM-P 29742, 2 個体(うち1個体は標本破損により損失), 体長63.3mm, 津久井郡津久井町三ヶ木(相模川水系道志川), 1994年10月30日, たも網, 木村喜芳・萩原清司採集(相模湾海洋生物研究会, 印刷中)。

生息状況

神奈川県環境部が進めている丹沢大山自然環境総合調査において、筆者らは淡水魚類を担当し、同調査中に相模川水系の道志川からアカザ2尾を採集した。採集地点は津久井湖の上流に位置するが、湖水のバックウォーターの影響は受けない。河川形態型は、Aa-Bb移行型(可児, 1970)で、早瀬がよく発達し、河床には大礫が多い。調査標本は2尾とも、早瀬の大きな転石の下に潜んでいて、ヌマチチブやカジカ(大卵型)とともに採集された。

分布

本種は日本固有種で、宮城県のア武隈川と秋田県の雄物川以南の本州・四国・九州に広く分布するとされる(森・名越, 1989)。しかし、本州中部

以東の分布はかなり不連続で、日本海側では、石川・富山両県にはほとんど分布せず、太平洋側の静岡県中部以東では、栃木県などから局所的に見つかっているだけである(板井, 1982)。今回の採集例は、神奈川県内並びに相模川水系での分布の初記録であり、従来知られている分布地域の間にあって飛び地的な存在となる。関東地方では、埼玉県行田市及び羽生市の利根川水系での採集記録があるが、同地のものは放流種苗への混入に由来する移入種であると推察されている(金澤, 1991)。

備考

著者の一人の木村は、聞き取りによって、以前から今回の採集地付近での本種の生息に関する情報を得ていた。それにもかかわらず、今回まで本種の確認が遅れた理由としては、従来この地域で行われた魚類相調査において、渓流域が必ずしも十分に調査されていなかったことや、本種が夜行性であるという生態的特性のため、日中の調査では発見されにくいことなどがあげられる。当初、今回の採集個体が他水域からの移入による可能性も考えられたが、その後の神奈川県水産研究所内水面試験場の調査により、相模川水系の秋山川や沢井川など、複数の支流から数個体が確認されており(勝呂尚之氏私信)、このことから相模川水系における本種は自然分布であるものと考えられる。今後の調査によって、分布範囲はさらに広がるものと予想されるが、溪流環境の荒廃が著しい現在、定量的な調査に基づき個体群の動態を把握する必要がある。

3. オヤニラミ *Coreoperca kawamebari* (Temminck et Schlegel)

YCM-P33381, 1 個体, 体長82.9mm, 三浦郡葉山町長柄(森戸川), 1993年9月3日, たも網, 田中顕三郎氏採集(右腹鰭が欠損)。

生息状況

三浦半島の森戸川中流で、田中顕三郎氏によりオヤニラミが1尾採集された。採集個体は、採集時にはかなり衰弱しており、流下してきたところを同氏に採集された。

分布

国内での自然分布域は、淀川及び由良川以西の本州・四国北部・九州北部であり(香田・渡辺, 1989), 調査標本は明らかに放流に由来するものである。

備考

近年、本種は自然分布域の各地で減少しており、環境庁のレッドデータブックでは、希少種に指定されている(環境庁, 1991)。一方、鑑賞魚としての人気も高く、ペットショップなどに流通している。

4. クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus* (Linnaeus)

YCM-P33296, 1 個体, 体長14.0mm, 鎌倉市由比ヶ浜海岸橋上流(滑川), 1995年10月14日, 叉手網, 木村喜芳・長谷川孝一氏採集。

採集個体は、頭部の諸骨が発達し、後側頭骨は後方へ伸長する棘を有するなど、本科とチョウチンウオ科魚類に特有にみられるトリクテス期幼生の特徴をよく示している。体色は黒褐色で、体側には6本の暗色横帯があり、生時には背鰭前方及び第一背鰭前部, 第二背鰭基部, 尾柄に鮮やかな赤橙色斑が認められたが、ホルマリン固定後には失われた。

生息状況

調査標本は、鎌倉市の滑川河口域の魚類相調査時に得られた。採集地点は、河口から約300m上流に位置する感潮域であるが、採集時の塩分濃度は0.5‰であった。同個体は、流れの緩やかな川岸の植物の陰から、テングヨウジ・コトヒキの幼魚・アベハゼとともに採集された。

分布

本種はインドー太平洋域に広く分布し、国内では沖縄島以南に多く見られる。成魚は大きな河川の河口付近に生息するが、幼魚期には感潮域を遡上し、淡水域にまで侵入する(木下, 1989)。九州以北では若魚が確認され、これまで知られている国内での分布北限は、和歌山県の加茂川河口域からの採集記録(瀬能・北村, 1982)によるものである。今回の採集例は、神奈川県初記録であると同時に、国内での分布北限記録となる。

5. ウロハゼ *Glossogobius olivaceus* (Temminck et Schlegel)

HSM-P0077, 1 個体, 体長168.2mm, 逗子市桜山(田越川河口), 1988年12月18日, 釣り, 中川与八氏採集。

HSM-P0228, 1 個体, 体長146.5mm, 逗子市桜山富士見橋(田越川河口), 1990年12月20日, 釣り, 中川与八氏採集。

YCM-P33382, 1 個体, 体長136.1mm, 横浜

市金沢区野島町地先(平潟湾野島水路), 1996年9月17日, 掴み採り, 早川厚一郎氏採集。

生息状況

採集個体は河口域あるいは内湾の干潟で採集され, いずれも淡水の影響が少ない場所である。

田越川産標本の採集時の状況は不詳であるが, 田越川は感潮域が広く, 河口域がよく発達するため, 汽水魚がよく侵入する。田越川河口域では, 上記調査標本以外にも, 著者の一人の中根が1995年と1996年の夏季に夜間観察において, 体長20cm程のウロハゼ数尾を確認している。夜間は水深の浅い岸近くに定位していることが多く, 容易に捕獲できた。

平潟湾産の標本は, 砂泥底の干潟域に放置されたパイプの中から採集された。採集者である早川厚一郎氏は, 長年にわたってこの水域で漁獲を行っているが, 本種を捕獲したのは初めてであるという。採集個体を譲り受けた著者の一人の萩原は, 水槽内で同個体がマハゼの幼魚を吐き出す様子を観察している。

分 布

国内では, 茨城県と新潟県以南の本州・四国・九州・種子島に分布する(岩田, 1989)。

県内では, 1987年7月に相模川馬入橋付近で採集された2個体を, 林(1989)が神奈川県初記録として報告した。相模川ではその後も採集例があるというが, 今回, 新たに上記の2水域からの記録が追加された。特に東京湾側の水域での生息が確認されたのは, 今回が初めてである。

備 考

相模川と田越川では, 採集記録及び観察例が多く, 安定した個体群が維持されていると推察される。今後, 相模湾に流入する他水系の河口域からも発見される可能性は十分に考えられる。一方, 東京湾側では, 君塚・多紀(1985)が多摩川下流域での本種の生息の可能性を示唆したが, 確認には至らず, 今回の採集個体が初記録となった。前記のとおり, 平潟湾においても長年採集されることがなかったことから, 生息数は少ないものと思われる。動向に注目したい。

謝辞

本報をまとめるにあたり, 横須賀市自然博物館の林 公義氏には原稿を校閲していただき, 標本及び標本写真の一部を貸与いただいた。謹んで感謝の意を表する。また, 標本を寄贈・貸与いた

き, 調査に協力いただいた早川厚一郎氏(横浜市金沢区), 田中顯三郎氏(東海大学海洋学部), 池田 等氏(葉山しおさい博物館), 勝呂尚之氏(神奈川県水産研究所内水面試験場), 相模湾海洋生物研究会の諸氏に感謝の意を表する。

引用文献

- 浜口哲一, 1995. 淡水魚. 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, pp.121-132. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 林 公義, 1989. 神奈川県淡水魚類分布資料(V). 横須賀市博物館研究報告(自然), (37):99-100.
- 林 公義・浜口哲一・石原龍雄・木村喜芳, 1989. 神奈川県の帰化魚類. 神奈川自然誌資料, (10): 43-64.
- 板井隆彦, 1982. 静岡県の淡水魚類. 208pp. 第一法規, 東京.
- 岩田明久, 1989. ウロハゼ. 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, pp.611. 山と溪谷社, 東京.
- 金澤 光, 1991. 埼玉県に生息する魚類の総括的知見. 埼玉県水産試験場研究報告, (50): 92-138.
- 環境庁編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 脊椎動物編. 331pp. 日本野生生物研究センター, 東京.
- 可児藤吉, 1970. 溪流棲昆虫の生態. 可児藤吉全集全一卷, pp.3-91. 思索社, 東京.
- 君塚芳輝・多紀保彦, 1985. 多摩川下流域の魚類相. 大田区の水生物(大田区自然環境保全基礎調査報告書), pp.7-52. 東京都大田区.
- 木下 泉, 1989. クロホシマンジュウダイ. 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, pp.533. 山と溪谷社, 東京.
- 香田康年・渡辺宗孝, 1989. オヤニラミ. 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, pp.486-489. 山と溪谷社, 東京.
- 真山 紘, 1989. サケ. 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, pp.210-225. 山と溪谷社, 東京.
- 森 誠一・名越 誠, 1989. アカザ. 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, pp.410-411. 山と溪谷社, 東京.
- 中坊徹次編, 1993. 日本産魚類検索: 全種の同定. xxxiv+1474pp. 東海大学出版会, 東京.
- 相模湾海洋生物研究会, 印刷中. 淡水魚からみた

丹沢の沢. 丹沢大山自然環境総合調査報告書,
神奈川県.

斉藤和久, 1984. 神奈川県の淡水魚類分布状況.
神奈川県の水生生物, (6): 133-166.

瀬能 宏・北村利幸, 1982. 加茂川感潮域の魚類.
南紀生物, 24(1): 36-42.

(相模湾海洋生物研究会)

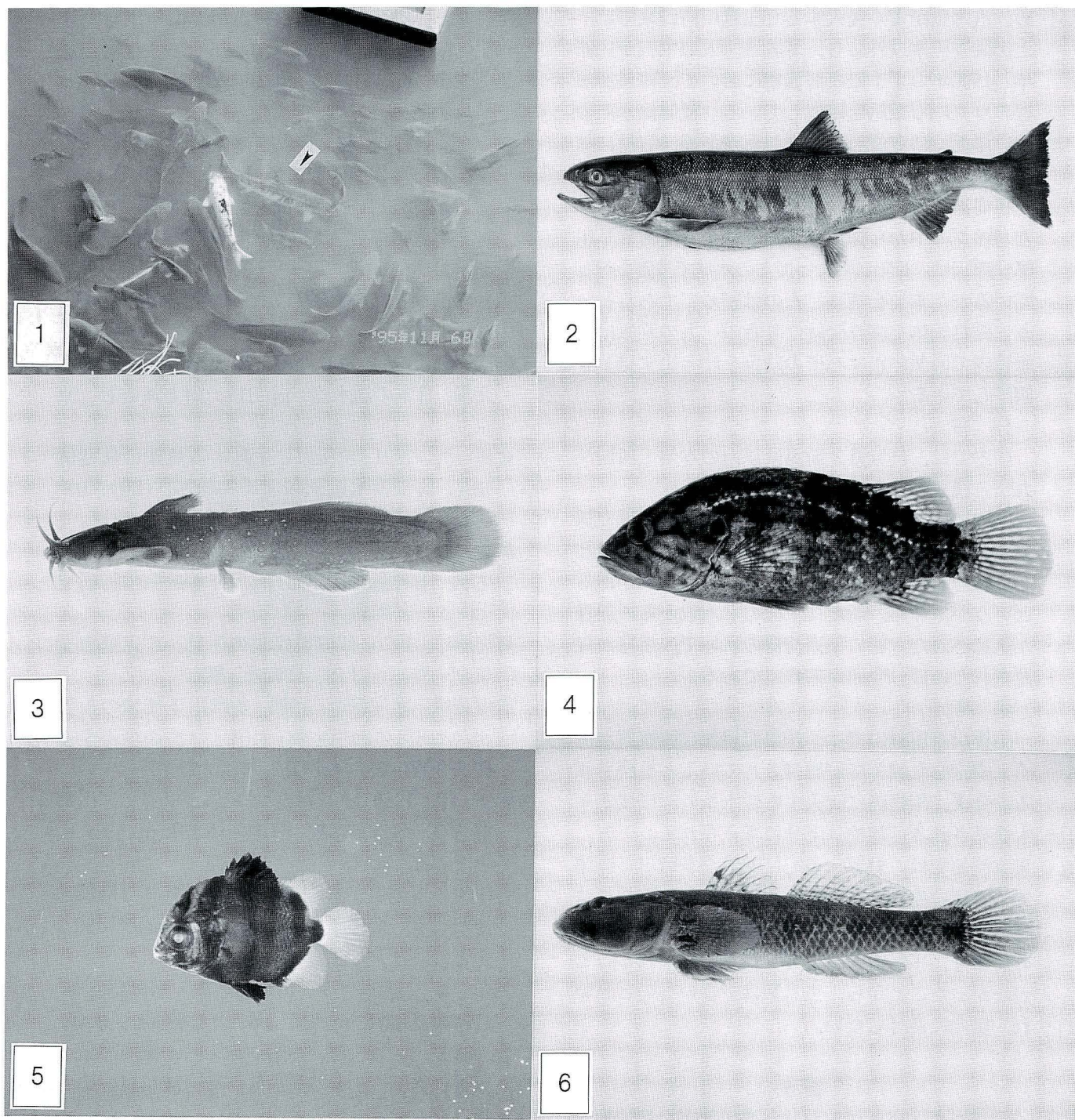


図1 1. ニシキゴイに混ざって遊泳するサケ

3. アカザ YCM-P29742

5. クロホシマンジュウダイ YCM-P33296

2. サケ YCM-P33383

4. オヤニラミ YCM-P33381

6. ウロハゼ YCM-P33382